



「目は離さずに手は離せ」とは

校長 友生 雅夫

1学期も残りわずかとなりました。梅雨明け後、雨が降らず、暑い日が続きましたが、先週から雨が降る日もあり、少しだけ暑さから解放されたように感じます。学校農園の野菜も、学級園の花も元気が出てきました。この暑さだけではなく、トカラ列島の地震、新燃岳の噴火などもあります。全校朝会で子どもたちに話をしましたが、なぜこのようなことが起こっているのかを考えたり、調べたりして地球温暖化に関心をもって欲しいと思います。そして、自分たちに何ができるかを一緒に考えたいです。

話は変わりますが、子育ての中で「目は離さずに、手は離せ」という言葉があります。子どもの発達段階の中で、子どもに手助けが必要な時期があります。小学校でいえば、特に1年生の時期でしょうか。教室に來ると、ランドセルの中の物を机に入れる、ランドセルをかばんだなに入れる、体育服に着替えるなど毎日することですが、1年生にとっては時間がかかることです。もちろん、中にはすぐにできる子どももいます。ただ、中には、時間がかかる子もいます。担任や友だちが手伝えば、時間はかからないかもしれません。でも、ランドセルの中の物を机に入れることが自分でできるようになったとき、「すごいね、自分でできたんだね」と褒めてあげれば、「次はもっと自分でがんばろう」という気持ちが芽生えてきます。時間がかかるときは、担任と一緒にやることも必要です。でも、少しずつ自分でできるように手を離していくことが必要です。

家庭では、どうでしょう。子どもたちは明日もっていく物の準備をします。家に帰ってすぐするか、寝る前にするか、朝準備をするか子どもたちも違うと思います。時間割を確認し、教科書やノートなどを入れるだけなら朝でもできるかもしれません。ただ、図工の道具を準備する、ノートが使い終わっていたなど準備が必要なものがあれば、寝る前や朝では間に合わないことがあります。それを考えれば、家に帰ったら早い段階で次の日の準備をすることが大事だと思います。ただ、家庭も忙しいです。もし、準備が必要なものが準備できなかったら、連絡帳に書くか、連絡してください。対応はできると思います。できれば、「明日の準備できた、準備するものはない」と声をかけていただけるとありがたいです。

わたしの家では、忘れてしまいがちな子、めんどくさがる子がいました。性格的に違う子どもたちでしたが、時間がかかると親がやっけてしまいがちでした。そのため、親に依存する（頼る）習慣が付いてしまったかなと反省しています。ただ、何気なく子育てをしながら今でも話すことは、「目を離さないこと」が大事だということです。子どもたちは、生きていく中でさまざまな困難に出会います。わたしの家では、そんなことが多いでした。そのとき、子どもたちと一緒に悩みました。周りの方にもたくさん助けていただき解決策を見付けていきました。それがありがたいでした。

1学期は大変お世話になりました。学校と家庭で連携し、子どもたちを見つめ、協力しながら2学期も教育活動を行っていきたいと思います。